

平成28年度第2回佐久市社会教育委員会議事録（要約）

日時 平成28年10月5日（木）

午後1時30分

会場 佐久市役所 303会議室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 協議・連絡事項

(1) 全国社会教育委員連合会長表彰の受賞について

(2) 教育委員との施設見学場所の選定及び懇談会における議題について

委 員：児童館の取り組みの様子、子ども達の様子などについて見学することは出来ないか。

委 員：教育委員との意見交換の題材としても児童館の見学は適していると考えます。

事務局：児童館に関しては、今回の日程だと職員の方々の話は聞けても児童の様子を見ることは難しい時間帯と考えられます。日程的に今回の懇談会前にできなくても、要望があればあらためて調査・見学の日を設定することは可能です。

委 員：現時点において社会教育委員が活躍している現場として佐久城山小学校並びに佐久城山児童館を視察し教育委員との懇談につなげるのも良いか考える。また、昨年度議題になったキッズメディアセーフティのことも現在どのような動きになっているか。

委 員：軽井沢で行われた今年度の佐久地区社会教育委員連絡協議会総会研修会で講演を聞いた際、子どもの受け皿として信州型コミュニティスクールという選択肢もあるのではないかと提言がなされていたように思う。そういった話題を取り上げるのも良いのではないか。

委 員：主幹指導主事の講演等でのメディアの話題に関して、以前より教育委員とも議題として取り上げてきたものだが、この話の落としどころをどこに持っていくのだろうということがずっと気になっていた。子どもを取り巻く現状は分析されているが、じゃあどうしたらいいのか、ということがないまま勉強会が進んでいるように感じていた。軽井沢での講演でコミュニティスクールの話が出てきて、そこにメディアの問題を投げることが感じられたが、その割に佐久市はコミュニティスクールへの取り組みが進んでいない。どこかで絡めていかなくてはいけないのではないか。キッズメディアセーフティの取り組みも見えてこない。これに関しても社会教育委員として私達はどう

したらいいのか。

委員：子ども達の会議を開催し、子ども達で主体的に考えさせて決めさせる。その内容を全学校で、放送等を使って全児童が見る機会を設け、子ども達自身が考える機会を設ける。そのように取り組みは進んでいるが、確かに私は当事者なので分かるが他にはわかりにくい。それはおっしゃる通り、その後どうなったか知る機会も必要である。

委員：子ども達に押し付けでやっていることは浸透しないし、子ども達から考えさせるように仕向けていかないと身についていかない。そのために私達は親として地域人としてどのように関わって仕向けていくべきかみんなで語り合うのもすごく意味のある事。

委員：そのようなことをつなげていく機会も必要。状況が見えてきて初めて私達はどうすべきかわかってくる。

委員：子ども未来館について、園児、児童が園、学校行事等でよく利用している。子ども達に宇宙や科学に関する関心を持たせるためにさまざまな催し物を企画しているように思う。子ども達への関わりという面において子ども未来館の見学などはいかがか。

事務局：館長も替わったところなので、面白い取り組みに関してのことも聞けるかとも思う。

委員：信州型コミュニティスクールについて何のことかわからないでいる。本日もらった「社教情報75号」を見ると、それぞれがそれぞれのできる分野で出来ることを、というようにことを言われていて、一番問題は貧困問題。貧困が子ども達の学力や生活に出てきている。目をそらしてはいけないうこと。市でもそういった資料があると思うが、メンバーが変わったらやる事が変わる。それが困るのは子どもであり先生である。自分としてはいろいろなことを深めていきたい。

委員：子供の貧困で具体的事例はあるか。

委員：学校評議員会等で子どもの貧困のことも話題になったが、割合さ一つと話題が過ぎていってしまう。児童館もいっぱい過ぎて、何とか児童の話をじっくり聞こうと学校の空き教室一室を借り、何回か話していく中で生活の貧困の話が出てくると聞いている。

委員：貧困の連鎖の話も聞く。何とかしていなければいけない。具体的な話があって私達ができることがあれば。

委員：信州型コミュニティスクールの目的がはっきりしない。各学校の温度差があるという問題を聞いた。教師の資格もないのに教えてもいいのかということ、また、少し前まで学校はセキュリティの問題で入ってはいけなかったが、なぜ急に地域の人も入れということになったのかということに、疑問を感じる。学校側に負担になっていること

はないのかと先生に聞いたら負担になる面もあると言っていた。外部から入っていくのに抵抗もあると思える。東地区は公民館が窓口になってやっているが、地域の人も先生も田植えなど行事の予定を組むのに大変な労力をかけていると聞いている。お互いに苦勞するだけではないのか。目的を教えてほしい。

委員：一番の根本は、社会的な情勢が変わってきて、子ども達を学校のみで育てるという観念が無理になってきているということ。社会全体で育てていかなければいけないということ。それは以前からあった考え方ではあるが、前は学校ですべきこと、家庭ですべきこと、社会ですべきこと、それぞれ分かれている考えだった。でもそうではなくて互いに重なり合う部分があるということ、それがまさにコミュニティスクールと考えられている。大変なことはあるがベースにあるのは互惠関係。共育ちという考え方につながっていく。佐久市の学校はどうかというと、佐久市は都市部と言いながらも今までの学校の成り立ちから地域とつながっている学校が多い。新しく始めるということをしなくても既に一緒にやっていることがある。それをまとめていくということ。それでなぜ運営委員会が必要かということ、地域と学校がどんな子どもを育てていきたいかということ共有していくことである。例えば佐久穂町の学校だったら森林や林業に着目しているし、浅科だったら五郎兵衛米、それぞれの地域に根差したものの、活動を信州型コミュニティスクールの中で見直していけばどうだということ、簡単なことと言うとそんなところですよ。

委員：新しいことをやるのではなくて、今まで活動していたことを信州型コミュニティスクールで取り上げていけばいいということですね。

委員：今までやってきたことを整理していくということ。運営上のことと言うと、教師は担任も校長も教頭も、いずれはいつか替わってしまう。ところがコーディネーターは地域の人の。地域どうしのつながりで、「学校ではこんなこと、地域ではこんなことを」という感じにスムーズにつながっていけるし継続できる。子ども達にも学校にもそんなに負担がかからない。そういうようなことを取り込みながら。もちろん今までやってきたことだけでなく、新しいことを取り入れているところもある。例えば佐久平浅間小学校は新しい学校だから、いま、キャリア体験のイベントということで地域の方の仕事についての講座をやってもらっている。歯医者さんとかクリーニング屋さんとか、地元の商店街の人が講師で来て子ども達に体験をさせてくれている。地域の特性を生かすとはそういうことです。

委員：望月小学校で信州型コミュニティスクール運営委員会の委員長をやっている。今は模索中で何をやっていいのか、やっとなかなか光が見えてきたような気がするくらい、実際に関わると大変。望月小はコミュニティスクールに関して校長先生が専従みたい

に頑張ってやっている。望月小はいままでもボランティアが多く入っていたので、コーディネーターを一人にすることが出来なくて、大勢います。それぞれ今まで関わりのある団体の中でとりまとめてもらえる人をコーディネーターとしている。やはりコーディネーターは一人でなければいけないと考えると、負担が大きく進んでいかない。もともと土壌がある所なのでその人達に任せるとしていると結局動くのは校長先生になってしまう。委員長に話は通してくれるのでそれぞれの団体の動きはわかるが、今度2回目の運営委員会があるがその時その時で必要なことは違ってくる。いろいろある中で一番は学校との調整をして入っていかないと難しい。いろんなやり方があっていいと思う。学校側でもこんなこと頼んじゃいけないんじゃないかとの考えもあったかもしれないが、ひとつひとつ共有しながらやっていくことが大事。形を整えるよりも行動していくことの方が大事。やっていくしかない。

事務局：信州型コミュニティスクールの導入は来年の3月までに全学校でということでしたか。

委員：来年度中の導入です。考えとしては、必要なことが必要な時に必要な人ということ、無理しないでいいと思います。例えばミシンの学習だったらミシンのできるお母さん方に補助をお願いする、でもそれが一年間続くわけではない。でも次の年になったら今年もお願いとできる。この流れが分かっている人が必要、これが地域の人の力だと思います。社会教育委員がなぜコーディネーターが多いかというと、もともと地域で活動していて地域に精通している人が多いから、そんな形でどの学校も動いている、まとめているところだと思います。温度差というか、新しいことをやらないといけないうと思うと負担になる。地域づくりという側面から見た場合は社会教育という側面を含めてみると、関わっていただける地域の方々が、例えばボランティア室のような所に集まって、今日はどんなことやろうかななどと話し合うのも、その人達にとっての学びの場ですし、その学びの場として学校が拠点となる。そしてその人達だけでなく子ども達も、今日は教わってよかったね、うまくなったね、などと感じる、それも学びの場、先ほど言った互惠関係であるわけですね。そこを忘れちゃいけない。

委員：東地区は、小学校から参観日のお知らせなどが各戸配布されている。それを見て学校に行くと、後日公民館のイベントに小学生が積極的に参加して声を掛けてくれたり、そういったつながりから公民館のつどいの司会をお願いしたりしている。お互いに協力し合っている。先日教頭先生と話す機会があったが、今までは公民館が窓口で公民館職員がやっていたが、今度運営委員会を立ち上げるとのことだった。

事務局：今後各学校でそのような話になっていったとき、社会教育委員の協力を求められることも多いと思う。ぜひ積極的な協力をお願いします。

委員：これまでの話では、子ども関係のことが多く議題に出たように思う。児童館も含めて、そのような視点で見学できれば今後の話に結びついていくような気がする。

事務局：教育委員との会議での議題もそんな子ども関係の話、佐久キッズメディアセーフティの話も入ってくるのでそんな方向でまとまっていけば。

委員：内容をお聞きしていると、来年度の社会教育委員会議の方向性まできているように見える。来年度は個人個人が課題をもって臨むことが望ましい。教育というと誰しものが学校教育ということしか考えないように思うが、信州型コミュニティスクールは社会教育の分野、社会教育委員としては信州型コミュニティスクールについて教育委員会からぜひ諮問してもらいたい、そして社会教育委員が考えてお答えする。子どもは地域で、社会で育てる、地域を育ててくれる子どもを育てる、これが信州型コミュニティスクールの目標と考える。今度の懇談会は信州型コミュニティスクールのことについて情報を流すという意味で議題にしてよろしいのではないか。施設巡りは学校以外での子どもの現状が見えるところを選んで懇談会の議題としたとの部分を見せても良いのではないか。

委員：社会教育関係のイベントに関しても、その場その場に足を運んでみなければ何も言えない、それも勉強の一つ。来年度は会議の回数にしてもそれを踏まえて考えていかなければならない。信州型コミュニティスクールのコーディネーターにしても、市で配置してもらおうような提言をすとかをしていかないと、コーディネーターの引継ぎができずにその場しのぎで終わっていつてしまうことにもなりかねない。その人を支えるのも社会教育委員の役目。

4 その他

事務連絡

5 閉 会